

赤磐市山陽郷土資料館 特集展示

# 平成の発掘でたどる赤磐の歴史

会期 平成三一年四月二七日〜令和元年六月二日

ごあいさつ

当館では元号が「平成」から新たに「令和」へと変わる節目にあたり、平成の三〇年間に行われた遺跡の発掘調査から赤磐の歴史を紐解く展示会を開催することとしました。

当館の代表的な展示品は、昭和の時代に発掘された岩田一四号墳出土環頭大刀や正崎二号墳出土甲冑などです。しかしながら、その後の平成の時代に行われた発掘調査においても特筆すべき出土品がたくさんあります。その中から学芸員や調査員が厳選した出土品を展示し、平成の時代を振り返ってみたいと思います。

この展示会がこれまで重ねられてきた赤磐の歴史にふれる一助となれば幸いです。今回の展示会の開催にあたり、ご協力くださいました各方面の皆様には厚く御礼申し上げます。



# プロローグ 平成の発掘をたどる



赤磐市で平成の30年間に行われた発掘調査は、規模の大小を問わなければ30件以上を数えます。

その前半は、岡山県教育委員会が山陽自動車道や美作岡山道路の建設に伴って大規模な発掘を実施しました。これらは平成初めのバブル崩壊とともに低調となりました。

高月公民館や山陽総合福祉センターなどの公共施設建築に伴って発掘も行われました。また、平成の大合併による赤磐市の誕生後は、新消防庁舎や新環境センターの建設に際しても調査が行われました。

後半からは、史跡備前国分寺跡や両宮山古墳の整備事業に伴う発掘が行われました。史跡を活用した歴史学習の場を整備するもので、あわせて観光振興に寄与し、郷土のアイデンティティを表徴する「地方創生」の現代社会を反映しています。

近年では、山陽IC近くに整備された物流拠点「あかいわ山陽総合流通センター」に伴って発掘がなされています。調査後は企業が入り、市に新たな雇用を生み出しています。

このように、平成の発掘をたどると、赤磐の古代から連綿と続く歴史とともに、平成の当市のまちづくりの歴史も知ることができます。

## 平成の歴史年表

平成	西暦	主な出来事	赤磐の主な出来事	調査遺跡名
元	1989	消費税導入		
2	1990	ドイツ再統一		
3	1991	湾岸戦争勃発	くまやまふれあいセンター完成 山陽町総合体育館供用開始 電天文台公園完成	<b>斎宮遺跡</b> 、斎宮古墳群、 <b>馬屋遺跡</b>
4	1992	東海道新幹線で「のぞみ」が運転開始	熊山工業団地造成完了	<b>門前池東方遺跡</b>
5	1993	サッカーJリーグ開幕 日本初の世界遺産誕生(法隆寺・姫路城・屋久島・白神山地)		<b>正免東古墳</b>
6	1994	関西国際空港開港	ドイツの森オープン	
7	1995	阪神淡路大震災発生、地下鉄サリン事件発生	吉井竜天オートキャンプ場オープン	
8	1996	アトランタオリンピック開催		
9	1997	消費税5%に引き上げ		前内池遺跡、前内池古墳群
10	1998	長野オリンピック開催、明石海峡大橋開通	ライフプラザ吉井完成	来光寺跡、来光寺遺跡、立道遺跡
11	1999	富本銭が発掘される		佐古遺跡、 <b>平岩古墳</b>
12	2000	BSデジタル放送開始、シドニーオリンピック開催		岡遺跡、慶運寺跡 北坂奥遺跡
13	2001	アメリカ同時多発テロ発生	環境省から吉備丘陵の白桃として「かおりの風景百選」に認定される	谷の前遺跡
14	2002	ソルトレイクシティオリンピック開催		<b>土井遺跡</b>
15	2003	小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ		<b>両宮山古墳</b> (第1次)、 <b>備前国分寺跡</b> (第1次)
16	2004	新潟中越地震発生、アテネオリンピック開催		
17	2005	愛知県で「愛・地球博」開幕	<b>赤磐市誕生</b> 、 <b>赤磐市山陽郷土資料館へ名称変更</b> 岡山国体開催	
18	2006	トリノオリンピック開催		
19	2007	新潟中越地震発生		婦本路古墳群 八塚古墳群
20	2008	北京オリンピック開催	新中央図書館オープン、ふるさと納税制度開始	
21	2009	裁判員裁判による初裁判	備前国分寺跡史跡整備工事開始	
22	2010	バンクーバーオリンピック開催 小惑星探査機「はやぶさ」帰還	チャレンジデー初参加、あつ晴れ！おかやま国文祭開催	<b>丸田遺跡</b> <b>中屋遺跡</b>
23	2011	東日本大震災発生	山陽幼稚園開園	辺谷製鉄遺跡
24	2012	東京スカイツリー開業、ロンドンオリンピック開催	赤磐市交通安全啓発マスコットの愛称が「あかいわももちゃん」に決定	<b>藩銅遺跡</b> 辺谷中田遺跡、成ル古屋遺跡、水口遺跡、谷山遺跡
25	2013			
26	2014	消費税8%に引き上げ	熊山診療所開所	大池尻遺跡
27	2015	マイナンバー制度スタート、北陸新幹線開業		<b>山の間遺跡</b>
28	2016	18歳選挙権施行、熊本地震発生	赤磐市を舞台とした映画「種まく旅人」公開	
29	2017		赤坂ひまわりこども園開園	
30	2018	西日本豪雨発生	「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやまのストーリーが日本遺産に認定	
31	2019	<b>元号が平成から令和に改元</b>		

\* 赤字は展示遺跡



平成に発掘が行われた遺跡

# 1 山陽自動車道建設に伴う発掘調査（平成3～4年）

## さいどみ 齋富遺跡 古墳時代の渡来系集落

赤磐市齋富 平成3～4年調査

なだらかな傾斜地上に展開する遺跡からは縄文時代から弥生・古墳・奈良、さらに中・近世までの多くの遺構・遺物が検出されました。

特に、集落規模が拡大する古墳時代後半期の住居跡・包含層からは朝鮮半島に關係する遺物が出土し、この地域が朝鮮半島との密接な關係を築いていたことが想定されます。出土した軟質（系）土器、陶質（系）土器、算盤玉形土製紡錘車が朝鮮半島系資料であり、渡来人との強い関わりが考えられます。

このことから、ほぼ同時代に築造された両宮山古墳に代表される吉備屈指の勢力がこの地域に存在したことが想起されます。

## まや 馬屋遺跡 奈良時代の公的施設群

赤磐市馬屋 平成3～4年調査

現代の山陽自動車道のルートは古代の山陽道とも近いと見られ、付近には古代山陽道に沿って造られた高月駅家推定地や備前国分寺・国分尼寺跡があります。

遺跡は、奈良時代から平安・鎌倉・室町時代前期にいたる時期の遺構・遺物が検出されました。特に、遺跡名が示す古代山陽道駅家関連の奈良時代の遺構が注目されます。

奈良時代の4棟の建物は、方向をそろえ整然と配置されており、一つの公的施設群としてとらえられます。一角から、袍衣を納めたと考えられる遺構を検出し、こういった慣習が地方でも認められることが確認されました。

# 2 美作岡山道路建設に伴う発掘調査（平成9～19年）

## どい 土井遺跡 県内唯一の埴輪窯の発見

赤磐市可真上 平成14～15年調査

弥生時代から近現代までの遺構が検出されましたが、古墳時代後期の埴輪と陶棺を焼いた窯2基と古代の瓦と須恵器を焼いた窯1基が発見されたことは特筆すべきです。窯周辺からは円筒埴輪や形象埴輪、陶棺などが多量に出土しました。

埴輪を焼いた窯の発見は県内初で、しかも埴輪と陶棺を同じ窯で焼いていたことが明らかとなりました。また、古代にも瓦と須恵器を焼いており、一帯は窯業生産地であったようです。

遺跡周辺は「可真」という字をもち、古代からの記憶の重なりがその地の由来となったのでしょう。

## ひらいわ 平岩古墳 銀象嵌刀装具をもつ大形横穴式石室墳

赤磐市石 平成11～12年調査

石を積み上げて造った西に開口する横穴式石室（無袖式・全長9.1m）が検出されました。石室の天井石は残っていませんでしたが、奥壁には縦長の1枚石を使用しています。中からは、須恵器、土師器、金属製品などが出土しました。

鱗状の銀象嵌が施された刀の柄頭が見つかり、この古墳に埋葬された人物の格の高さを物語っています。また、古墳時代の工芸技術の高さを感じることができます。



### 3 史跡整備事業に伴う発掘調査（平成 15～28 年）

#### 備前国分寺跡

てんぴょう はな  
天平の華に  
ふさわしい大寺院

赤磐市馬屋 平成 15～20・23・24 年調査

古代山陽道に面した南向き緩斜面に建立された国分寺の跡です。国分寺は奈良時代の天平 13 年（741）に当時の聖武天皇が全国 60 余国にその建立を命じたものです。

築地塀が南北 200m・東西 180m の範囲でめぐり、その中に南門・中門・金堂・講堂・僧房の主要建物が一直線に並んでいました。回廊の東には国分寺のシンボル「塔」が配置されていました。

「天平の華」にふさわしい奈良三彩や平安時代の銅印、施釉陶器、輸入陶磁器など貴重な品々が出土しました。



外濠（北から）

#### しょうめんひがし 正免東古墳

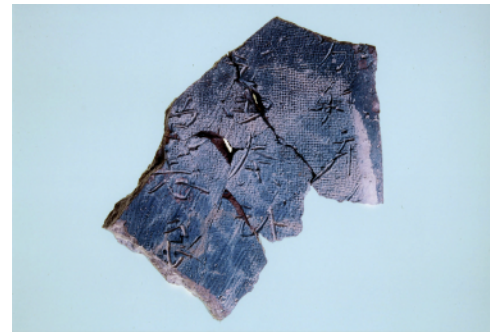
埴輪をもつ  
さくへい  
削平古墳の発見

赤磐市穂崎 平成 5～6 年調査

両宮山古墳の南東、森山古墳の北側で発見された古墳。水田の下から見つかったため、それまでこの古墳の存在は知られていませんでした。墳丘の上部はすでに削平され埋葬施設などは残っていませんでしたが、墳丘外側の周溝からは葺石や埴輪がたくさん出土しました。調査された周濠は全体の約 1/4 で円形のため、古墳は円墳か帆立貝形古墳の可能性がります。森山古墳あるいは両宮山古墳を主墳とする陪塚と考えられます。



銅印



文字瓦

#### りょうぐうざん 両宮山古墳

しゅうごう  
二重周濠をもつ  
吉備の大古墳

赤磐市穂崎・和田 平成 15～17・26～28 年調査

備前地域最大の前方後円墳。全長 206m の墳丘は岡山県で 3 番目の大きさを誇り、吉備の三大古墳の一つに数えられます。造られたのは 5 世紀後半で、吉備の有力豪族の墓と考えられます。

現在水をたたえた内濠の外側に外濠が発見され、内外二重の周濠をもつ古墳であることが判明しました。

このような畿内の大王墓に匹敵する広大な墓域を形成することが明らかになった一方で、葺石や埴輪が設置されないという謎も残っています。



周溝から出土した葺石と埴輪片（南から）



## 4 公共施設建設に伴う発掘調査

### もんぜんいけとうほう 門前池東方遺跡 渡来系集落の発掘

赤磐市河本 平成4～5年調査

山陽総合福祉センター建設に伴って、山陽団地遺跡群の東部を発掘調査しました。楽浪系土器、陶質土器、オンドル状遺構などの朝鮮半島系の遺物・遺構が検出された集落遺跡です。

楽浪系の円筒形の筒杯形土器は朝鮮半島との交流を考えるうえで大変貴重な出土品です。斎富遺跡を含めこの地域が朝鮮半島と継続的な関係があったことがうかがえます。



オンドル状遺構（西から）

### また 丸田遺跡 砂川氾濫原の弥生遺跡

赤磐市津崎 平成22～23年調査

消防署・環境センター建設に伴って、確認調査を行いました。遺跡は市を南北に流れる砂川左岸の平野部に位置します。砂川から運ばれた軟弱な土砂堆積の中で、弥生時代後期前半という一時期に人々の生活の営みが確認できました。

砂川流域の平野部でもこういった小規模な集落が散在していた可能性が考えられます。



発掘調査状況（土坑や柱穴を検出）

## 5 あかいわ山陽総合流通センター建設に伴う発掘調査 （平成24～27年）

### やま ま ちやくどう 山の間・着銅遺跡 カマド導入期の 古墳時代集落

赤磐市長尾 平成24・27年調査

北東にのびる低丘陵の南東斜面から、古墳時代中期後半から後期にかけての竪穴住居や段状遺構などが検出されました。住居のカマドは5世紀末の住居には見られず、6世紀前葉の住居から認められるため、この地域でこの頃作り付けのカマドが普及したことを示しています。

遺跡が営まれた古墳時代中期後半から後期は、両宮山古墳などの古墳群が築造された時期を含むことから、これらの古墳群との関係が注目されます。



須恵器



カマドをもつ竪穴住居



## 6 遺跡の不時発見（平成 22 年）

### なかや 中屋遺跡の大量出土銭 戦国時代の びちくせん 備蓄銭

赤磐市石 平成 22 年調査

畑脇の農道拡張作業の際に、法面から備前焼三耳壺に納められた大量出土銭が発見されました。出土した銅銭は 56 種類 5,833 枚です。

三耳壺が 16 世紀前半のものと考えられ、出土銭に慶長通宝や寛永通宝を含まないことから、16 世紀後半頃の戦国時代に埋められたものと考えられます。このように壺や甕などの容器に大量の銭貨を納めて地中に埋める行為は中世において顕著に行われていました。



備前焼三耳壺と銅銭

## エピローグ 新しい時代に向けて

平成の 30 年間に行われた多くの発掘調査が開発事業に伴って破壊されてしまう遺跡の調査です。道路や公共施設の建設、企業立地に際して、貴重な遺跡が調査されました。これらは、赤磐市の交通網などのインフラ整備やまちづくりには欠かせない事業と密接に関わり、このことは発掘調査の歴史が、まちづくりの歴史とも重なることを示しています。

今私たちが生活しているその土台は、過去から引き継がれた歴史のうえにあります。そこで、私たちは失われた遺跡とひきかえに発掘調査が語ってくれる歴史を末永く子孫に伝えていかなければなりません。

ここで、平成の発掘から紐解いた赤磐の歴史を簡単にまとめてみましょう。

**弥生～古墳時代：**吉備の三大古墳「両宮山古墳」に代表される吉備屈指の勢力に現される古墳群と集落、そこには朝鮮半島との密接な関係がうかがえます。

**奈良～平安時代：**都と大宰府を結ぶ大路「古代山陽道」に沿って造られた国分寺や公的施設群は備前の中核であったことを示しています。

**戦国時代：**地中に埋めた大量の銭貨から軍事的緊張とその当時の経済活動がうかがえます。

本市には、幸いに国の史跡として指定を受け、その保存が約束された備前国分寺跡や両宮山古墳などの著名な遺跡があります。これらは、歴史を体感できる学習の場として整備・活用が望まれます。そのような活用のための発掘調査も平成時代の後半にはじまり、整備・活用事業は現在も進行中です。

今回の展示が発掘調査によって紐解かれた赤磐市の歴史を新時代へ継承していく機会となれば幸いです。

## 赤磐市山陽郷土資料館 特集展示「平成の発掘でたどる赤磐の歴史」 出品目録

プロローグ 平成の発掘をたどる

### 1 山陽自動車道建設に伴う発掘調査(平成3～4年)

遺跡名	資料名	年代	点数	所蔵
斎富遺跡	須恵器 把手付椀	古墳時代中期(5世紀)	1	岡山県教育委員会
	新羅系陶質土器 杯蓋	古墳時代中期(5世紀後半)	1	
	軟質系土器 平底鉢	古墳時代中期(5世紀)	3	
馬屋遺跡	須恵器 杯蓋	奈良時代(8世紀)	1	
	須恵器 杯身	奈良時代(8世紀)	1	
	和同開珎	奈良時代(8世紀)	3	

### 2 美作岡山道路建設に伴う発掘調査(平成9～19年)

土井遺跡	陶棺 蓋片	古墳時代後期(6世紀後半)	1	岡山県教育委員会
	人物埴輪	古墳時代後期(6世紀後半)	1	
	鹿形埴輪	古墳時代後期(6世紀後半)	1	
平岩古墳	刀装具 柄頭	古墳時代後期(6世紀末～7世紀前半)	1	
	刀装具 石突き	古墳時代後期(6世紀末～7世紀前半)	1	

### 3 史跡保存整備事業に伴う発掘調査(平成15～28年)

備前国分寺跡	文字瓦	奈良時代(8世紀)	1	赤磐市教育委員会
	緑釉陶器 香炉蓋	平安時代(9世紀後半)	1	
	唐三彩・奈良三彩	奈良時代(8世紀)	5	
	銅印	平安時代(10世紀)	1	
	鍍金した銅製品	古代	1	
正免東古墳	線刻された円筒埴輪	古墳時代中期後半(5世紀後半)	2	
	蓋形埴輪	古墳時代中期後半(5世紀後半)	2	

### 4 公共施設建設に伴う発掘調査

門前池東方遺跡	楽浪系土器 筒杯形土器	弥生時代後期	1	赤磐市教育委員会
	陶質土器	古墳時代中期(5世紀後半)	1	
	土馬	古代	1	
丸田遺跡	弥生土器	弥生時代後期	3	

### 5 あかいわ山陽総合流通センター建設に伴う発掘調査(平成24～27年)

山の間遺跡	滑石製白玉	古墳時代中期(5世紀)	6	赤磐市教育委員会
	須恵器 ハソウ	古墳時代後期前半(6世紀前半)	1	
	須恵器 杯身	古墳時代後期前半(6世紀前半)	1	
	須恵器 杯蓋	古墳時代後期前半(6世紀前半)	1	
	須恵器 有蓋高杯	古墳時代中期後半(5世紀後半)	2	

### 6 遺跡の不時発見(平成22年)

中屋遺跡	大量出土銭(銅銭)	戦国時代(16世紀)	一括	赤磐市教育委員会
	備前焼 三耳壺	戦国時代(16世紀)	1	

エピローグ 新しい時代に向けて